

木曽谷支援の取組について

- 中部森林管理局 森林整備部 木曽森林ふれあい推進センター
自然再生指導官 ^{おおし まさひろ} 大石 政弘

1. 課題を取り上げた背景

平成 26 年 9 月に発生した御嶽山の噴火は、犠牲者が 50 名を超える大災害となり、発生から 4 年目となる現在でも観光客は噴火前の 76%と回復しておらず、木曽谷の観光産業へ深刻な影響を与えています。

中部森林管理局では、木曽谷の支援を実施するため、長野県による「つながろう木曽 応援運動」の一環として、木曽川下流地域の中京圏との交流イベント、木曽谷の復興支援ツアー及び木曽地域の観光協会等と連携した木曽路トレッキングパズルラリーなどを実施することにより、観光客誘致の一助とするための取組を行っています。

2. 取組の経過

「中京圏との交流イベント」は、県等の関係機関との協力により、森林ボランティア活動へのフィールドの提供、技術指導などを行っています。

「木曽谷の復興支援ツアー」は、木曽谷の豊かな自然や水資源への理解を深めてもらうことを目的に平成 26 年度から開催しており、これまでに国有林の木曽ヒノキ林や名古屋市の水瓶である牧尾ダムの見学等を行いました。

平成 28 年度から、新たな取組として「木曽路トレッキングパズルラリー」を



中京圏との交流イベント



木曽谷の復興支援ツアー

実施しました。

パズルラリーは、木曽路の遊歩道を散策することにより、森林の大切さへの理解と来訪者数の増加を促し、参加者による新たな観光名所の発見やパズル完成による達成感の獲得を狙いとしてしました。

木曽地域 6 町村に所在する 12 の散策コースを巡る「木曽路トレッキングコース」と赤沢自然休養林内で

完成する「赤沢トレッキングコース」を同時開催し、コース内の定点にあるパズルピースを 6 枚集めると木曽谷ゆかりの浮世絵、木曽谷の林業の歴史を語る「木曽式伐木運材図会」が完成するようにしました。

3. 実行結果

パズルラリーは初めての試みでしたが、思った以上に好評を博し、参加者へのアンケート結果では、地元の長野県や愛知県などの中部地方が 77%を占め、年齢別では 50 歳以上が 55%となりました。

参加者や協賛団体からは「よかった」、「継続してほしい」という好意的な反応が多く寄せられました。

4. 考察

これまで実施した木曽谷支援の各種取組は、多数の参加者を得て一定の成果が上がり、今年度から着手したパズルラリーは、参加者や協賛団体等から継続の強い要望が寄せられています。また、パズルの張り板には「木曽の間伐材使用」と銘打って間伐材の利用促進への想いを込めました。これらを念頭に置き、平成 29 年度新たに「中山道 木曽十一宿パズルラリー」を開始するなど、今後も地域関係者と連携を図りながら木曽谷支援に努めて参ります。



パズルラリー完成品

(木曽式伐木運材図「元伐之図」)